

議案番号：議案第37号

案件名：新庁舎北棟建築工事（デザインビルド方式）請負契約について

議員氏名：大沼 英樹

討論内容：

私は、議案第37号に反対の立場で討論をさせていただきます。

先日、委員会の視察で訪れた静岡県のおさはた緑地は、繰り返される水害から市民の命や暮らしを守る治水機能を持つ公園として2021年に生まれました。現地でお話を伺った指定管理者の施設長は、かつては数十年に一度とされていた大雨が、近年では毎年何回も発生し、何度となく浸水していると、地球規模での環境変化を、実感を持って語っておられました。

私は、新庁舎の建設そのものに反対をしているわけではありません。老朽化した現庁舎の現状を見れば、更新や機能改善が必要であることは明らかです。ただし、町史上最大規模となるこの事業は、単なる利便性の向上や職員の働きやすさのためにとどまるものではなく、未来につながる、町民全体の利益と安全に資する高いビジョンを持って実施されるべきだったと考えております。

残念ながら、これまでに示されてきた計画は、その規模に見合うだけの説得力を欠き、町の将来に禍根を残しかねないものです。これが結果的に浪費に終わるならば、それは町民全体に対する裏切りであり、未来への重い負債となるでしょう。

その最大の責任は当然、村田町長にあります。これに賛同し支えてきた関係者の皆様にも、やはり一定の責任を担っていただくべきだと考えております。

仮に、今後、新庁舎の完成後に水害が発生し、災害対策本部が消防署などへ移転を余儀なくされるようなことがあれば、それは明らかな判断ミスであり、二宮町の歴史的背景や地勢に対する理解不足がもたらした結果だと指摘せざるを得ません。

さらに、地盤に不安のある消防庁舎がこれらの計画と併せて検討されなかった現状からも、地震等で機能不全に陥るような事態となれば、現在進められている消防庁舎改修工事も無駄な支出に終わるおそれがあります。

そうした事態は単に建物の問題にとどまらず、行政として最も重要な使命、すなわち、町民の命と財産を守る責任を果たせなくなる可能性があるのです。

加えて、ゼロカーボンシティや気候市民会議といった先進的なキーワードを掲げながらも、実際には、環境配慮の観点から有効とされる県産木材を活用した純木造がかなわない現計画、あるいはこどもまんなかと言いながら、生徒数の減少を待ってからの学校統廃合方針、さらには観光協会の民営化についても事務所移転の情報共有すら不十分なまま進められている現状に、大きな疑問と懸念を抱いております。

これらの点からも見えるのは、町の未来よりも、目先の成果や町長自らの実績づくりを優先しているのではないかという厳しい指摘を受けざるを得ない現町政の姿です。

町政を預かる立場にある者として、また、一員として、私たちは崇高な使命と責任を自覚し、もっと誠実に、そして真摯に町の未来に向き合わなければなりません。その原点に立ち返り、未来を見据えた判断と行動を重ねていくべきです。

私は、町の未来を思い、町民の暮らし、命を守る責任を真剣に考えております。その覚悟をもって、この計画に対し反対の意思をここに表明し、意見を述べさせていただきました。以上です。